授業科目	保健医療福祉行政論 Health & Welfare Administration			担当教員	千葉　昌樹		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○		○	◎	
授業目的	住民の健康と福祉の向上を目的とする保健医療福祉行政サービスの基本的要素である保健医療福祉行政財政の理念および仕組みについて学修する。また、保健医療福祉の社会的適用は、政治や行政による政策が中心であることを理解するとともに、その基盤である行政の仕組みや法規を理解する。さらに、人間の健康と生命を保持・増進する社会システムとしての医療の提供体制の現状について理解する。							
到達目標	1. 保健医療福祉行政の理念と仕組みについて説明できる。 2. 保健医療福祉制度の変遷等について説明できる。 3. 保健医療福祉行政に係る法体系や仕組みの概要について説明できる。							
テキスト	図説 国民衛生の動向 2020／2021（一般財団法人 厚生労働統計協会）							
参考書	国民衛生の動向 2020／2021（一般財団法人 厚生労働統計協会）、藤内修二他編「保健医療福祉行政論」（医学書院）							

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50%	到達目標の達成度を定期試験、提出物等の内容で総合的に評価する。 レポート：現在、保健・医療・福祉行政で起きている課題など その他：授業への取り組み姿勢
	レポート	40%	
	小テスト		
	提出物		
	その他	10%	

履修上の留意事項	既習の関連科目を復習して臨むこと。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健・医療・福祉行政の理念や仕組み現状と課題について、理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	保健医療福祉行政について
		授業内容	わが国の社会保障の動向と衛生行政の体系
		事前・事後学習	テキストの該当項目を読んでおく
	2	学習の主題	保健医療福祉に関する指標
		授業内容	衛生の主要指標
		事前・事後学習	身近な保健医療福祉行政について考える
	3	学習の主題	保健・医療・福祉の動向（1）
		授業内容	保健・医療の基盤形成と政策と施策
		事前・事後学習	テキストの該当項目を読んでおくこと
	4	学習の主題	保健・医療・福祉の動向（2）
		授業内容	社会福祉の基盤形成と政策・施策
		事前・事後学習	テキストの該当項目を読んでおくこと
	5	学習の主題	医療保険・介護保険
		授業内容	医療提供体制、介護保険制度について
		事前・事後学習	テキストの該当項目を読んでおくこと
	6	学習の主題	公衆衛生行政施策と推進
		授業内容	計画の策定・推進・評価について
		事前・事後学習	テキストの該当項目を見ておくこと
	7	学習の主題	地域保健行政と活動
		授業内容	保健所の役割と機能、市町村保健センターの役割
		事前・事後学習	在自分が生活している地域の行政単位について考える

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	8	学習の主題	労働衛生・健康危機管理
		授業内容	行政組織、法制、対策、労働環境の改善・医療事故等の危機管理
		事前・事後学習	健康危機管理を必要とする場面を考えておく

授業科目	病態診療学 II Fundamentals of Clinical Medicine II				担当教員	千葉　仁志、小林　清一		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2 単位		
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		◎				
授業目的	病態診療学 I をふまえて、さらに、神経系疾患、呼吸器系疾患、運動器疾患、皮膚系疾患、血液系疾患、免疫、アレルギー系疾患、婦人科系疾患、小児科系疾患などの病態・検査・診断・治療の概要を学修する。また免疫と栄養状態の関連について、生体防御システムと栄養、アレルギー疾患、感染症と生体防御について理解する。							
到達目標	臨床の現場において、管理栄養士として他のメディカルスタッフと連携して、食事の提供や栄養指導を行うための基礎的知識を身につけている。							
テキスト	授業のレジメは、イラストと写真を多用し、分かりやすさを最優先にまとめてある。 学生はテキストの田中　明 編「＜栄養科学イラストレイテッド＞ 臨床医学　疾病の成り立ち（改訂第 2 版）」（羊土社）を参照しながらレジメ中心に学修を進める。							
参考書	詳しいものとして、浅野嘉延 編「なるほどなっとく！内科学」（南山堂）、浅野嘉延、吉山直樹 編「看護のための臨床病態学（第 3 版）」（南山堂）。 知識の整理・確認に適したものとして「レビューブック管理栄養士」（メディックメディア）。							

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	中間試験（千葉担当分 100 点満点）と定期試験（小林担当分 40 点満点）の成績を加算し、総合得点の 60%以上を取得することを合格の基準とする。試験は、多肢選択式で、重要疾患についてのレジメで示す基礎的知識が確実に身についているかという観点から評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	解剖学、生理学、生化学の基礎科目の理解が出来ていることを前提として、病態、検査、診断、治療について学修を行う。個々の必要に応じて基礎科目の復習を行うこと。授業の情報量が多いので毎回の予習・復習は必須である。更に反復学習を行うことによって知識が定着する。学習に十分な時間をかけることが必要である。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、医師として重要と判断する事項や理解が難しい事項については特に丁寧に授業を行い、理解を助けます。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（千葉）	学習の主題	ガイダンス
		授業内容	病態診療学 II について
		事前・事後学習	教科書による事前・事後学習に各 30 分程度必要とする。
	2（千葉）	学習の主題	疾患別の病態と治療の概要
		授業内容	神経・精神系疾患の病態・成因・症状・診断・治療の概要
		事前・事後学習	教科書による事前・事後学習に各 30 分程度必要とする。
	3（千葉）	学習の主題	疾患別の病態と治療の概要
		授業内容	呼吸器系疾患の病態・成因・症状・診断・治療の概要
		事前・事後学習	教科書による事前・事後学習に各 30 分程度必要とする。
	4（千葉）	学習の主題	疾患別の病態と治療の概要
		授業内容	運動器系（ 骨格系 ）の病態・成因・症状・診断・治療の概要
		事前・事後学習	教科書による事前・事後学習に各 30 分程度必要とする。
	5（千葉）	学習の主題	疾患別の病態と治療の概要
		授業内容	皮膚系疾患の病態・成因・症状・診断・治療の概要
		事前・事後学習	教科書による事前・事後学習に各 30 分程度必要とする。
	6（千葉）	学習の主題	疾患別の病態と治療の概要
		授業内容	血液・造血器系疾患の病態・成因・症状・診断・治療の概要
		事前・事後学習	教科書による事前・事後学習に各 30 分程度必要とする。
	7（千葉）	学習の主題	疾患別の病態と治療の概要
		授業内容	婦人科系疾患の病態・成因・症状・診断・治療の概要
		事前・事後学習	教科書による事前・事後学習に各 30 分程度必要とする。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	8 (千葉)	学習の主題	疾患別の病態と治療の概要
		授業内容	小児科系疾患の病態・成因・症状・診断・治療の概要
		事前・事後学習	教科書による事前・事後学習に各 30 分程度必要とする。
	9 (千葉)	学習の主題	疾患別の病態と治療の概要
		授業内容	眼・耳鼻咽喉科系疾患の病態・成因・症状・診断・治療の概要
		事前・事後学習	教科書による事前・事後学習に各 30 分程度必要とする。
	10 (千葉)	学習の主題	疾患別の病態と治療の概要
		授業内容	加齢・疾患に伴う変化、病態・成因・症状・診断・治療の概要
		事前・事後学習	教科書による事前・事後学習に各 30 分程度必要とする。
	11 (千葉)	学習の主題	前半のまとめ、評価
		授業内容	中間試験（1〜10 回までの出題範囲)、解答、解説
		事前・事後学習	レジメ、教科書による事前学習 10 時間、事後学習 2 時間程度必要とする。
	12 (小林)	学習の主題	疾患別の病態と治療の概要
		授業内容	アレルギー疾患の病態・成因・症状・診断・治療の概要
		事前・事後学習	教科書による事前・事後学習に各 30 分程度必要とする。
	13 (小林)	学習の主題	疾患別の病態と治療の概要
		授業内容	自己免疫疾患の病態・成因・症状・診断・治療の概要
		事前・事後学習	教科書による事前・事後学習に各 30 分程度必要とする。
	14 (小林)	学習の主題	疾患別の病態と治療の概要
		授業内容	感染症の病態・成因・症状・診断・治療の概要
		事前・事後学習	教科書による事前・事後学習に各 30 分程度必要とする。
	15 (小林)	学習の主題	疾患別の病態と治療の概要
		授業内容	輸血療法・血液型不適合妊娠の病態・症状・診断・治療の概要
		事前・事後学習	教科書による事前・事後学習に各 30 分程度必要とする。

授業科目	食品科学実験 II Food Science Laboratory II			担当教員	荒川　義人		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	実験			単位数	1 単位		
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	○	◎			○	○
授業目的	植物性食品や動物性食品に含まれる特徴的な成分を分離、精製する。多様な食品を実験試料として扱い、食品個々の特性を理解するとともに、食品の生産・加工・流通と栄養について、生産条件、食品加工の意義、食品の流通・貯蔵や加工にともなう食品の成分の変化（栄養価、嗜好性、安全性）との関わりについて理解する。							
到達目標	1. 食品成分の定性・定量、同定に関わる手法を身に付けている。 2. 食品個々の成分特性について理解している。 3. 貯蔵や調理・加工にともなう成分変化と、栄養価、嗜好性、安全性の関係について理解している。							
テキスト	津久井亜紀夫 編著 荒川義人他著「食べ物と健康Ⅳ　食品学実験・実習」（樹村房） ※他にテーマごとにプリントを配布する。							
参考書								

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況をレポート（60%）、その他（40%）で評価する。 その他：授業時の実験操作を進める姿勢
	レポート	60%	
	小テスト		
	提出物		
	その他	40%	

履修上の留意事項	レポートは、実験テーマごとに内容（結果・考察）をまとめたものを、指定期日までに提出する。 レポート作成時、とくに食品科学 I 、II のテキストで実験内容に該当する箇所の復習を含め 2 時間程度を要する。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	植物性食品の特性（1）
		授業内容	小麦粉のでんぷん、グルテンの分離
		事前・事後学習	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
	2	学習の主題	植物性食品の特性（2）
		授業内容	小麦粉のでんぷん、グルテンの定性
		事前・事後学習	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
	3	学習の主題	植物性食品の特性（3）
		授業内容	野菜のクロロフィルの定性
		事前・事後学習	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
	4	学習の主題	植物性食品の特性（4）
		授業内容	野菜のクロロフィル、カロテノイドの分離と定性
		事前・事後学習	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
	5	学習の主題	植物性食品の特性（5）
		授業内容	果実の糖分と有機酸の定量（糖酸比の算出）
		事前・事後学習	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
	6	学習の主題	植物性食品の特性（6）
		授業内容	海藻のグルタミン酸の抽出
		事前・事後学習	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	7	学習の主題	植物性食品の特性（7）
		授業内容	海藻のグルタミン酸の定性
		事前・事後学習	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
	8	学習の主題	動物性食品の特性（1）
		授業内容	牛乳のカゼイン、乳糖の分離
		事前・事後学習	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
	9	学習の主題	動物性食品の特性（2）
		授業内容	牛乳のカゼイン、乳糖の定性
		事前・事後学習	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
	10	学習の主題	食品の鮮度（１）
		授業内容	野菜のビタミンＣの減少～アスコルビナーゼの影響
		事前・事後学習	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
	11	学習の主題	食品の鮮度（２）
		授業内容	牛乳の鮮度判定試験
		事前・事後学習	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
	12	学習の主題	食品の鮮度（３）
		授業内容	鶏卵の鮮度判定試験
		事前・事後学習	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
	13	学習の主題	食品の着色（１）
		授業内容	アミノ・カルボニル反応
		事前・事後学習	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
	14	学習の主題	食品の着色（２）
		授業内容	酵素的褐変反応
		事前・事後学習	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
	15	学習の主題	官能検査
		授業内容	味覚、嗅覚による食品の評価方法
		事前・事後学習	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。

授業科目	応用栄養学III Applied Nutrition III				担当教員	千葉　昌樹		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2 単位		
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎	○		
授業目的	応用栄養学 I ・応用栄養学 II を基礎として、ライフステージにおいては成人期、高齢期の栄養管理について学修する。成人期の生理的変化と生活習慣の変化や更年期の生理的変化をふまえた成人期の栄養アセスメントと栄養ケアについて理解する。さらに、高齢期の生理的特徴である摂食機能や身体活動レベルの低下等をふまえ、低栄養の予防と対応、脱水、認知症、フレイルティ等の高齢期の栄養アセスメント、栄養ケアについて学修する。また、運動やスポーツ、ストレスや特殊な環境における身体状況について理解し、対応する栄養ケアについて、さらに休養と睡眠科学についても学修する。							
到達目標	1. 各ライフステージの身体特性、栄養状況を理解し、それぞれの栄養ケアについて説明できる。 2. 運動、ストレス、特殊環境下での身体への影響を理解し、栄養ケアを考えることができる。 3. 休養・睡眠科学に基づいた行動療法を考えることができる。							
テキスト	伊藤 貞嘉、佐々木 敏 監修「日本人の食事摂取基準〈2020 年版〉」（第一出版） 栢下 淳、上西 一弘 編「栄養化学イラストレイテッド　応用栄養学」（羊土社）							
参考書	佐々木 敏 著「食事摂取基準入門 - そのこころを読む」（同文書院）							

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	40%	目標の到達状況を下記の方法で評価する。 授業内容に応じた日常経験や実際の事例に関するレポート(20%)、や小テスト(40%)、定期試験(40%)、の結果を総合して評価する。
	レポート	20%	
	小テスト	40%	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	各回の授業内容を参照し、予習してから授業に臨むこと
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、ライフステージ別や特殊環境の身体状況や栄養状態に応じた栄養ケアなどを講義に織り交ぜながら、栄養ケア・マネジメントについて理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	成人期の栄養（1）
		授業内容	成人期の特性、栄養上の特徴、生活習慣病
		事前・事後学習	教科書、参考資料を事前に確認する。
	2	学習の主題	成人期の栄養（2）
		授業内容	生活習慣病と栄養ケア
		事前・事後学習	教科書を中心に予習復習を行う。
	3	学習の主題	壮年期の栄養
		授業内容	壮年期の特性、栄養ケア
		事前・事後学習	教科書を中心に予習復習を行う。
	4	学習の主題	更年期の栄養
		授業内容	更年期の特性、更年期障害、更年期の栄養ケア
		事前・事後学習	教科書を中心に予習復習を行う。
	5	学習の主題	高齢期の栄養（1）
		授業内容	高齢期の特性、栄養の特徴
		事前・事後学習	教科書を中心に予習復習を行う。
	6	学習の主題	高齢期の栄養（2）
		授業内容	高齢期の栄養障害と栄養ケア
		事前・事後学習	教科書を中心に予習復習を行う。
	7	学習の主題	ライフステージ別食事摂取基準
		授業内容	各ライフステージの食事摂取基準
		事前・事後学習	教科書を中心に予習復習を行う。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	8	学習の主題	運動と栄養（1）
		授業内容	運動時のエネルギー補給
		事前・事後学習	教科書を中心に予習復習を行う。
	9	学習の主題	運動と栄養（2）
		授業内容	健康増進と運動
		事前・事後学習	教科書を中心に予習復習を行う。
	10	学習の主題	スポーツと栄養
		授業内容	スポーツ種目と栄養
		事前・事後学習	教科書を中心に予習復習を行う。
	11	学習の主題	ストレスと栄養（1）
		授業内容	ストレスの基本的知識、ストレスと栄養
		事前・事後学習	教科書を中心に予習復習を行う。
	12	学習の主題	ストレスと栄養（2）
		授業内容	ストレスの実態と対処法
		事前・事後学習	教科書を中心に予習復習を行う。
	13	学習の主題	特殊環境と栄養
		授業内容	特殊環境下における栄養
		事前・事後学習	教科書を中心に予習復習を行う。
	14	学習の主題	休養と睡眠
		授業内容	休養、睡眠科学と行動療法
		事前・事後学習	教科書を中心に予習復習を行う。
	15	学習の主題	危機管理時の栄養
		授業内容	災害時を中心とした栄養・食生活
		事前・事後学習	教科書、参考資料、配付資料の見直しを行い、テストに備える。

授業科目	応用栄養学実習 Applied Nutrition Practicum	担当教員	千葉　昌樹
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	1 単位

学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎	○		○

授業目的	応用栄養学Ⅰ・応用栄養学Ⅱ・応用栄養学Ⅲを基礎として、各ライフステージにおける身体状況や栄養状態に応じた栄養ケアについて実習する。提示された個人（ 集団 ）に対して、栄養アセスメント、栄養ケア計画作成、評価のデザイン、評価結果のフィードバックなどを実習する。作成した栄養ケア計画についてはプレゼンテーションを行い、目標の設定やモニタリング方法等の説明や質疑応答等を通して、プログラムの評価や改善点などを確認し、栄養ケア・マネジメントについて実習する。
到達目標	各ライフステージの特徴をふまえ、アセスメント、栄養ケア計画の作成、評価のデザイン、評価結果のフィードバックなど栄養ケア・マネジメントができる。食事摂取基準を活用できる。
テキスト	東 愛子、原田まつ子、牧野登志子、白尾美佳 編「応用栄養学実習」（講談社）
参考書	1. 女子栄養大学出版部「調理のためのベーシックデータ」 2. 女子栄養大学出版部「七訂食品成分表 2016」

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 授業内容に応じた事例をもとに、行なった実習に関するレポート(40%)、や提出物（60%)、の結果を総合して評価する。
	レポート	40%	
	小テスト		
	提出物	60%	
	その他		

履修上の留意事項	応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことを復習すること。 小グループ学習を行うので、各自積極的に取り組むこと。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、ライフステージ別の身体状況や栄養状態などに応じた栄養ケア・マネジメントを、応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことを活用して、小グループによる授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	栄養ケア・マネジメントと青年期・壮年期の栄養(1)
		授業内容	ガイダンス、青年期・壮年期の栄養ケア計画、献立作成
		事前・事後学習	教科書、参考資料を事前に確認する。
	2	学習の主題	栄養ケア・マネジメントと青年期・壮年期の栄養(2)
		授業内容	青年期・壮年期の栄養ケア計画、献立作成
		事前・事後学習	教科書、参考資料を中心に予習復習を行う。
	3	学習の主題	栄養ケア・マネジメントと青年期・壮年期の栄養(3)
		授業内容	青年期・壮年期の食事、調理実習、試食、評価
		事前・事後学習	教科書、参考資料を中心に予習復習を行う。
	4	学習の主題	学童期・思春期の栄養（1）
		授業内容	学童期・思春期の食事、栄養ケア計画、献立作成
		事前・事後学習	教科書、参考資料を中心に予習復習を行う。
	5	学習の主題	学童期・思春期の栄養（2）
		授業内容	成壮年期の食事、調理実習、試食、評価
		事前・事後学習	教科書、参考資料を中心に予習復習を行う。
	6	学習の主題	妊娠・授乳期の栄養（1）
		授業内容	妊娠・授乳期の栄養ケア計画、献立作成
		事前・事後学習	教科書、参考資料を中心に予習復習を行う。
	7	学習の主題	妊娠・授乳期の栄養（2）
		授業内容	妊娠・授乳期の食事、調理実習、試食、評価
		事前・事後学習	教科書、参考資料を中心に予習復習を行う。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	8	学習の主題	乳児期・離乳期・幼児期の栄養（1）
		授業内容	乳児期、幼児期の栄養ケア計画、献立作成
		事前・事後学習	教科書、参考資料を中心に予習復習を行う。
	9	学習の主題	乳児期・離乳期・幼児期の栄養（2）
		授業内容	乳児期、幼児期の食事、調理実習、試食、評価
		事前・事後学習	教科書、参考資料を中心に予習復習を行う。
	10	学習の主題	高齢期の栄養（1） ケースメソッド
		授業内容	高齢期の栄養ケアマネジメント、アセスメント、献立作成
		事前・事後学習	教科書、参考資料を中心に予習復習を行う。
	11	学習の主題	高齢期の栄養（2）
		授業内容	高齢期の栄養ケアマネジメント、評価、栄養補助食品
		事前・事後学習	教科書、参考資料を中心に予習復習を行う。
	12	学習の主題	ライフステージと栄養管理
		授業内容	総評：各ライフステージの栄養ケア計画にもとづいた食事について
		事前・事後学習	教科書、参考資料を中心に予習復習を行う。
	13	学習の主題	スポーツと栄養
		授業内容	栄養と運動についての問題点や課題について
		事前・事後学習	教科書、参考資料を中心に予習復習を行う。
	14	学習の主題	食形態と調理科学
		授業内容	食形態と調理、評価
		事前・事後学習	参考資料、配布資料を中心に予習復習を行う。
	15	学習の主題	災害時の食生活と栄養
		授業内容	災害時の食事、防災食、評価
		事前・事後学習	参考資料、配付資料を中心に予習復習を行う。

授業科目	免疫と栄養 Immunity and Nutrition			担当教員	小林　清一			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・後期			選択・必修	選択			
授業形態	講義			単位数	1 単位			
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎				
授業目的	免疫学の基礎的概念を理解すると共に、免疫系の形成や維持及び免疫疾患発症に関与する腸管免疫系のしくみを学び、食品中の機能性成分が、どのような科学的根拠に基づいて免疫機能に影響を及ぼすのかを学修する。							
到達目標	1. 免疫系の基礎的概念と免疫ネットワークについて説明できる。 2. 食物アレルギーの分類、発症機序、病態及び治療法について説明できる。 3. 免疫系に影響する機能性食品成分について科学的根拠を持って説明できる。							
テキスト	特に指定しない。							
参考書	一般社団法人日本食品安全協会編「保健機能食品学」							

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		レポート：免疫と栄養に関する任意のテーマについてのレポートを課し、テーマ選定理由、レポートの体裁や内容などを評価する。 小テスト：毎回最後の 10 分間で授業内容に関する小テストを行い、正答率を評価する。
	レポート	60%	
	小テスト	40%	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	形態機能学や病理学などのテキストにて、既に学習した免疫系の知識を再確認したうえで受講すること。教員が作成したパワーポイント資料に基づいて授業を行う。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、免疫・アレルギー疾患事例などを講義に織り交ぜながら、免疫と栄養/栄養素との関係について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	科目ガイダンス / 免疫系を構成する免疫担当細胞と免疫ネットワーク
		授業内容	自然免疫と獲得免疫、細胞性免疫と液性免疫、免疫担当細胞、サイトカイン
		事前・事後学習	事前に主題の関連部分を他のテキスト等で確認し、配布プリントにて復習する。
	2	学習の主題	免疫反応と免疫検査
		授業内容	抗原抗体反応、細胞性免疫反応、免疫検査の基本的知識
		事前・事後学習	事前に主題の関連部分を他のテキスト等で確認し、配布プリントにて復習する。
	3	学習の主題	栄養免疫学の概要
		授業内容	栄養免疫学の現状、腸管免疫の概要
		事前・事後学習	事前に主題の関連部分を他のテキスト等で確認し、配布プリントにて復習する。
	4	学習の主題	食物アレルギー
		授業内容	食物アレルギーの実態、分類と発症機序、アナフィラキシー、
		事前・事後学習	事前に主題の関連部分を他のテキスト等で確認し、配布プリントにて復習する。
	5	学習の主題	疾患と栄養
		授業内容	免疫機能に影響を及ぼす栄養素とその効果
		事前・事後学習	事前に主題の関連部分を他のテキスト等で確認し、配布プリントにて復習する。
	6	学習の主題	腫瘍免疫と生体応答調節剤（BRM）
		授業内容	腫瘍免疫のしくみ、癌免疫療法の歴史と最新治療薬
		事前・事後学習	事前に主題の関連部分を他のテキスト等で確認し、配布プリントにて復習する。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	7	学習の主題	保健機能性食品制度
		授業内容	保健機能食品と機能性表示食品、特定保健用食品
		事前・事後学習	事前に主題の関連部分を他のテキスト等で確認し、配布プリントにて復習する。
	8	学習の主題	生体機能を修飾する機能性食品成分
		授業内容	ビタミン様物質と抗酸化食品成分
		事前・事後学習	事前に主題の関連部分を他のテキスト等で確認し、配布プリントにて復習する。

授業科目	スポーツ栄養学（基礎） Sports Nutrition(Basic)	担当教員	東郷　将成
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎			

授業目的	スポーツ選手・実施者に必要な食事・栄養素の役割と重要性について学ぶ。
到達目標	スポーツ選手・実施者に必要な食事量や栄養素の種類や量、役割について理解する。
テキスト	開講時に提示します。
参考書	

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	到達目標の達成度を試験、レポート内容で評価する。
	レポート	20%	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	1、2 年次で履修した「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「形態機能学」の復習をしておくこと。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	スポーツ実施時のエネルギー、エネルギー代謝
		授業内容	スポーツ・運動に必要なエネルギー供給とその代謝について学ぶ。
		事前・事後学習	事前にシラバスを読んでおく。テキストを確認し、内容を復習する。
	2	学習の主題	スポーツとたんぱく質
		授業内容	スポーツに必要なたんぱく質の栄養・摂取方法等について学ぶ。
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。
	3	学習の主題	スポーツと脂質
		授業内容	スポーツに必要な脂質の栄養・摂取方法等について学ぶ。
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。
	4	学習の主題	スポーツと炭水化物
		授業内容	スポーツに必要な炭水化物の栄養・摂取方法等について学ぶ。
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。
	5	学習の主題	スポーツとビタミン
		授業内容	スポーツに必要なビタミンの栄養・摂取方法等について学ぶ。
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。
	6	学習の主題	スポーツとミネラル
		授業内容	スポーツに必要なミネラルの栄養・摂取方法等について学ぶ。
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。
	7	学習の主題	スポーツと水分
		授業内容	スポーツに必要な水分の摂取方法等について学ぶ。
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。
	8	学習の主題	スポーツと補食・サプリメント
		授業内容	スポーツに必要な補食やサプリメントの摂取方法等について学ぶ。
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。

授業科目	スポーツ栄養学（応用） Sports Nutrition (Applied)	担当教員	松本　恵
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎			

授業目的	最新スポーツ栄養学を用いてコンディショニング方法を学ぶ。
到達目標	スポーツ選手を対象として、コンディション維持・調整と課題に対する対応が分かるようになる。 スポーツ選手の栄養サポートに活用、実践できる知識を身に付ける。
テキスト	開講時に提示します。
参考書	

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	到達目標の達成度を試験、レポート内容で評価する。
	レポート	20%	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	実務経験をもとに具体的事例を示しながら理解を深める。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	スポーツ選手の栄養アセスメント
		授業内容	栄養アセスメントの考え方、方法について
		事前・事後学習	事前にシラバスを読んでおく。テキストを確認し、内容を復習する。
	2	学習の主題	スポーツ選手のウエイトコントロール　Ⅰ
		授業内容	体重増量時の食事管理について
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。
	3	学習の主題	スポーツ選手のウエイトコントロール　Ⅱ
		授業内容	体重減量時の食事管理について
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。
	4	学習の主題	怪我と栄養対策
		授業内容	怪我が起こるメカニズムと栄養対策法について
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。
	5	学習の主題	心身のスタミナと栄養対策・リカバリー
		授業内容	精神的スタミナと肉体的スタミナのメカニズムと栄養対策法について
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。
	6	学習の主題	スポーツ選手に多い栄養障害（女性アスリートの主な特徴）
		授業内容	スポーツ選手が抱える栄養障害の特徴と対策について
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。
	7	学習の主題	ジュニアスポーツ選手の栄養管理
		授業内容	成長期のジュニアスポーツ選手の食事・栄養管理の考え方
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。
	8	学習の主題	サプリメントとエルゴジェニックエイド
		授業内容	サプリメント、エルゴジェニックエイド摂取の考え方。ドーピングとの関連について
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。

授業科目	スポーツ栄養学演習 Seminar in Sports Nutrition				担当教員	千葉　昌樹、槌本　浩司、松本　恵		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・通年				選択・必修	選択		
授業形態	演習				単位数	1 単位		
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎		○	○
授業目的	スポーツ選手を対象に食事を適切に管理できるようになるために、実践を通じてスキルを修得する。							
到達目標	スポーツ選手の栄養管理に必要な食し調査や体調管理・測定方法を体験し、方法を知る。 調査・測定結果をもとに、スポーツ選手の栄養管理の体験、実践を通じてスキルを身に付ける。							
テキスト	開講時に提示します。							
参考書								

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		到達目標の達成度を提出物等の内容で総合的に評価する。 レポート：見学に関する内容 提出物：献立、調査データ、栄養教育用資料 その他：授業への取り組み姿勢
	レポート	10%	
	小テスト		
	提出物	80%	
	その他	10%	

履修上の留意事項	具体的な事例に関わりながら、栄養サポートの方法について理解を深める。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （槌本）	学習の主題	ガイダンス。食事調査、体組成測定方法
		授業内容	演習のガイダンスと、食事調査、体組成測定の方法について
		事前・事後学習	事前にシラバスを読んで、授業全体の流れを確認しておくこと。
	2・3 （槌本）	学習の主題	食事調査、体組成測定の実施
		授業内容	調査、測定方法を演習する。
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を確認する。演習にしっかり取り組む。
	4・5 （槌本）	学習の主題	食事調査、体組成測定のデータ処理・解析
		授業内容	調査、測定データの読み取り方を学ぶ。
		事前・事後学習	演習にしっかり取り組む。
	6・7 （槌本）	学習の主題	スポーツ選手の栄養サポートの見学・参加
		授業内容	栄養サポートの実際の見学を行う。
		事前・事後学習	これまでの授業内容、資料を確認する。
	8～11 （千葉）	学習の主題	スポーツ選手のための食事（献立作成と調理）
		授業内容	スポート選手に必要な食事内容、調理方法を学ぶ。
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を確認する。課題にしっかり取り組む。
	12・13 （千葉）	学習の主題	スポーツ選手の栄養サポート
		授業内容	スポート選手の栄養マネジメントを行う。
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を確認する。課題にしっかり取り組む。
	14・15 （松本）	学習の主題	スポーツ選手の栄養管理計画、発表
		授業内容	スポート選手の栄養サポートの計画、立案、発表、ディスカッションを行う。
		事前・事後学習	課題にしっかり取り組む。

授業科目	栄養教育論Ⅲ Nutrition Education Ⅲ			担当教員	百々瀬　いづみ			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・前期			選択・必修	必修			
授業形態	講義			単位数	2 単位			
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎	○		
授業目的	教育対象者のライフステージ（ 発達段階と場 ）に合わせた栄養教育について学修する。妊婦・授乳婦、新生児・乳児、幼児、児童・生徒、成人など各対象者に対応した栄養教育と場について理解する。さらに、不特定多数の集団を対象とする栄養教育の方法や、障がい者、運動実施者を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法について理解する。							
到達目標	1. 教育対象者の各ライフステージに合わせた栄養教育方法について説明できる。 2. 教育対象者のライフスタイルに合わせた栄養教育方法について説明できる。 3. 障がい者、運動実施者（健康運動実施者、アスリート）の栄養教育方法について説明できる。 4. 不特定多数の集団を対象とした栄養教育の方法について説明できる。							
テキスト	栄養教育論Ⅰ・Ⅱと同じテキストを使用 （池田小夜子、斎藤トシ子、川野因「サクセス管理栄養士講座　栄養教育論」（第一出版）） ※その他、適宜プリントを配布する。							
参考書								

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	目標の達成状況を下記の視点から評価する。 定期試験 70% 小テスト 30%
	レポート		
	小テスト	30%	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	関連科目で修得した知識の統合を図り、栄養教育の実践力を高めよう。 各授業の前・後に予習・復習を 1 ～ 2 時間程要する。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域での栄養教育の実際（方法、課題等）を講義に織り交ぜながら、ライフステージ別の栄養教育の方法について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス、対象集団に合わせた栄養教育とは
		授業内容	授業ガイダンス 対象集団に合わせた栄養教育（栄養アセスメントと課題の選択、優先順位、栄養教育計画、評価など、栄養教育論Ⅰ・Ⅱの振り返り）
		事前・事後学習	テキストの関連ページを読むなど、授業の前後に 1 時間程度の予習・復習を要する
	2	学習の主題	ライフステージに応じた栄養教育（1）
		授業内容	妊婦・授乳婦を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法(1)
		事前・事後学習	テキストの関連ページを読むなど、授業の前後に 1 時間程度の予習・復習を要する
	3	学習の主題	ライフステージに応じた栄養教育（2）
		授業内容	妊婦・授乳婦・新生児・乳児を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法
		事前・事後学習	テキストの関連ページを読むなど、授業の前後に 1 時間程度の予習・復習を要する
	4	学習の主題	ライフステージに応じた栄養教育（3）
		授業内容	乳児を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法（離乳食）
		事前・事後学習	テキストの関連ページを読むなど、授業の前後に 1 時間程度の予習・復習を要する
	5	学習の主題	ライフステージに応じた栄養教育（4）
		授業内容	幼児を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法
		事前・事後学習	テキストの関連ページを読むなど、授業の前後に 1 時間程度の予習・復習を要する

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	6	学習の主題	ライフステージに応じた栄養教育（5）
		授業内容	児童を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法
		事前・事後学習	テキストの関連ページを読むなど、授業の前後に１時間程度の予習・復習を要する
	7	学習の主題	ライフステージに応じた栄養教育（6）
		授業内容	生徒を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法
		事前・事後学習	テキストの関連ページを読むなど、授業の前後に１時間程度の予習・復習を要する
	8	学習の主題	ライフステージに応じた栄養教育（7）
		授業内容	成人を対象とした栄養教育の場と方法(1)(食事バランスガイド)
		事前・事後学習	テキストの関連ページを読むなど、授業の前後に１時間程度の予習・復習を要する
	9	学習の主題	ライフステージに応じた栄養教育（8）
		授業内容	成人を対象とした栄養教育の場と方法(2)(休養指導)
		事前・事後学習	テキストの関連ページを読むなど、授業の前後に１時間程度の予習・復習を要する
	10	学習の主題	ライフステージに応じた栄養教育（9）
		授業内容	成人を対象とした栄養教育の場と方法(運動・身体活動)
		事前・事後学習	テキストの関連ページを読むなど、授業の前後に１時間程度の予習・復習を要する
	11	学習の主題	アスリートを対象とした栄養教育
		授業内容	アスリートを対象とした栄養教育の場と方法
		事前・事後学習	テキストの関連ページを読むなど、授業の前後に１時間程度の予習・復習を要 する
	12	学習の主題	障がい・障がい児を対象とした栄養教育
		授業内容	障がい・障がい児を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法
		事前・事後学習	テキストの関連ページを読むなど、授業の前後に１時間程度の予習・復習を要する
	13	学習の主題	不特定多数の集団を対象とした栄養教育
		授業内容	不特定多数の集団を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法
		事前・事後学習	テキストの関連ページを読むなど、授業の前後に１時間程度の予習・復習を要する
	14	学習の主題	食環境づくりと栄養教育
		授業内容	栄養教育のための食環境づくり
		事前・事後学習	テキストの関連ページを読むなど、授業の前後に１時間程度の予習・復習を要する
	15	学習の主題	栄養教育論Ⅲのまとめ
		授業内容	ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育と食環境づくりについてのまとめ
		事前・事後学習	テキストの関連ページを読むなど、授業の前後に１時間程度の予習・復習を要する

授業科目	栄養教育論実習 Nutrition Education Practicum				担当教員	百々瀬　いづみ		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	実習				単位数	1 単位		
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎	◎		○
授業目的	栄養教育論Ⅰ・栄養教育論Ⅱ・栄養教育論Ⅲで学修した基礎的な知識にもとづき、課題を設定し栄養評価を行う。データを分析・評価したうえで、根拠に基づいた指導目標を設定し、実践的な栄養教育の実習を行う。適切な栄養教育方法を選択し、栄養教育計画を作成、ロールプレイおよび、地域で実際に栄養教育を実施する。同時に栄養教育に有効な指導媒体の作成、発表後のグループディスカッションなどを通して実施した栄養教育の評価を行い、栄養教育をマネジメントする能力を身につける。							
到達目標	1. コンピューター等を用いて、栄養情報の分析、評価ができる。 2. 対象者の特性に対応した栄養教育プログラムを立案、指導媒体の作成ができる。 3. 栄養教育を実施・評価し、プログラムの修正案を提示できる。							
テキスト	無し							
参考書	※適宜プリントを配布する。							

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の達成状況を下記の視点から評価する。 ※提出物 1）自己の食事内容・生活リズム・身体活動状況等の記録、自己分析 2）個別栄養教育指導案、個別栄養教育後の評価（自己・他者評価） 3）各種食事調査法の結果と考察 4）集団教育のデータ解析、教育計画 5）栄養教育（実践）の計画と評価 ※その他：討議の際の積極性・協調性、自他評価の取り組み姿勢、発表時の態度等により総合的に評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	80%	
	その他	20%	

履修上の留意事項	関連科目で修得した知識を実習に応用する。 授業で行うグループ討議には積極的に参加し、課題に取り組みながら実践力を高めよう。
実務経験を活かした教育内容	学生が取り組む栄養教育の準備や実施後の評価に当たっては、実務経験者の立場から、地域の実情を踏まえた助言･指導を行いながら授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	授業ガイダンス、栄養教育(実践)の準備（1）
		授業内容	授業ガイダンス、栄養教育(実践)の準備（計画、教育媒体作成等）
		事前・事後学習	既修科目（栄養教育論Ⅰ～Ⅲ等）における関連事項の復習を要する。
	2	学習の主題	不特定多数の集団向け教育媒体の作成（1）
		授業内容	不特定多数の集団に向けた効果的な教育媒体を考案する（1）
		事前・事後学習	グループ作業のため、事前の関連学修と事後に打ち合わせ等を要する。
	3	学習の主題	栄養教育(実践)の準備（2）
		授業内容	栄養教育(実践)の準備（料理の試作等）
		事前・事後学習	グループ作業のため、事前の関連学修と事後に打ち合わせ等を要する。
	4	学習の主題	栄養教育(実践)の準備（3）
		授業内容	教育媒体作成、試作結果の振り返り、栄養教育練習等
		事前・事後学習	グループ作業のため、事前の関連学修と事後に打ち合わせ等を要する。
	5	学習の主題	食物摂取頻度調査
		授業内容	食物摂取頻度調査の実施、自己の評価
		事前・事後学習	授業前に関連事項の学修を要する。 時間内に終了しない場合、事後学習とする。
	6	学習の主題	24 時間思い出し法
		授業内容	食事調査(24 時間思い出し法)の実施、自己の評価
		事前・事後学習	授業前に関連事項の学修を要する。 時間内に終了しない場合、事後学習とする。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	7	学習の主題	個別栄養教育(1)
		授業内容	個別栄養教育（ロールプレイ）の準備(指導案作成、栄養教育準備)
		事前・事後学習	授業前に関連事項の学修を要する。 時間内に終了しない場合、事後学習とする。
	8	学習の主題	栄養教育（実践）の準備(4)
		授業内容	栄養教育（実践）のリハーサル(1)、振り返り
		事前・事後学習	授業前に関連事項の学修を要する。 時間内に終了しない場合、事後学習とする。
	9	学習の主題	栄養教育（実践）の準備(5)
		授業内容	栄養教育（実践）のリハーサル(2)、振り返り
		事前・事後学習	授業前に関連事項の学修を要する。 時間内に終了しない場合、事後学習とする。
	10	学習の主題	栄養教育（実践）の準備(6)
		授業内容	栄養教育（実践）のリハーサル(3)、振り返り
		事前・事後学習	授業前に関連事項の学修を要する。 時間内に終了しない場合、事後学習とする。
	11	学習の主題	不特定多数の集団向け教育媒体の作成（2）
		授業内容	不特定多数の集団に向けた効果的な教育媒体の作成、中間発表
		事前・事後学習	グループ作業のため、事前の関連学修と事後に打ち合わせ等を要する。
	12	学習の主題	栄養教育の実践
		授業内容	地域において栄養教育を実践する
		事前・事後学習	グループ作業のため、事前の関連学修と事後に打ち合わせ等を要する。
	13	学習の主題	個別栄養教育（2）
		授業内容	カウンセリング技法を用いた個別栄養教育（ロールプレイ）
		事前・事後学習	授業前に関連事項の学修を要する。 時間内に終了しない場合、事後学習とする。
	14	学習の主題	集団栄養教育（1）
		授業内容	集団栄養教育のためのデータ分析、課題の抽出、栄養教育計画作成
		事前・事後学習	グループ作業のため、事前の関連学修と事後に打ち合わせ等を要する。
	15	学習の主題	栄養教育（実践）の振り返り、集団栄養教育計画発表
		授業内容	栄養教育（実践）結果の振り返り、集団栄養教育方法の発表
		事前・事後学習	グループ作業のため、事前の関連学修と事後に打ち合わせ等を要する。 時間内に終了しない場合、事後学習とする。

授業科目	栄養カウンセリング演習 Practical Seminar of Nutrition Counseling				担当教員	岡本　智子		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・前期				選択・必修	選択		
授業形態	演習				単位数	1 単位		
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
			○	○	◎	○		
授業目的	栄養教育においては対象者自身が自らの課題に気づき、行動変容により課題を解決しようとする（主体性をもつこと）個々人に合わせた支援が求められている。またその支援は一方向ではなく双方向の関わりにより、対象者との信頼関係を構築しながら継続したフォローが必要となる。そのためには栄養カウンセリング理論を把握した上で、その技法（スキル）を習得し、カウンセリングマインドを身につけた対応が必要となる。この授業では対象者の行動療法を行うために基本的なカウンセリング理論のもと、演習を中心に、個別だけではなく集団栄養教育へとどのように応用すればよいか具体的なスキルを体得することを目的とする							
到達目標	管理栄養士として、人々の疾病の予防・治療や健康維持・増進とって欠かすことのできない栄養教育を行う上での必要な知識と技術を学び実践できる能力を身につけ、対象者にあわせた栄養カウンセリングができ、栄養教育・栄養サポートができるようになる。							
テキスト	1. 小松啓子・大谷貴実子編「栄養科学シリーズ　NEXT　栄養カウンセリング論　第 2 版」（講談社サイエンティフィック）							
参考書								

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 演習時の参加状況（授業態度を含む）、課題の実践状況とそのレポート、提出物により評価する。 その他：課題の実践状況
	レポート	50%	
	小テスト		
	提出物	20%	
	その他	30%	

履修上の留意事項	演習の授業なので、学んだことを実践して次の授業に望むこと。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から対象者に合わせたカウンセリング法を体得できるよう“わかる”から“できる”ようトレーニングを繰り返していく。また演習により体感できたことを自らの言葉で話せるよう、結果、対象者への伝えたいことを言葉で伝えられるよう授業を行う

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス（科目の目的）
		授業内容	この演習の目的、この授業の全体の流れ、一回ごとの授業の流れ、次回までの課題の実践方法、レポート提出の方法について
		事前・事後学習	指示したテキストの該当部分を読んでおく
	2	学習の主題	栄養カウンセリングの効果と栄養教育に必要なカウンセリングスキル①傾聴その 1
		授業内容	栄養教育におけるカウンセリングの位置づけとカウンセリングスキルの実践
		事前・事後学習	指示したテキストの該当部分を読んでおく、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする
	3	学習の主題	栄養教育に必要なカウンセリングスキル②傾聴その 2
		授業内容	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践
		事前・事後学習	指示したテキストの該当部分を読んでおく、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする
	4	学習の主題	栄養教育に必要なカウンセリングスキル③承認その 1
		授業内容	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践
		事前・事後学習	指示したテキストの該当部分を読んでおく、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	5	学習の主題	栄養教育に必要なカウンセリングスキル④承認その２
		授業内容	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践
		事前・事後学習	指示したテキストの該当部分を読んでおく、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする
	6	学習の主題	栄養教育に必要なカウンセリングスキル⑤質問その１
		授業内容	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践
		事前・事後学習	指示したテキストの該当部分を読んでおく、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする
	7	学習の主題	栄養教育に必要なカウンセリングスキル⑤質問その２
		授業内容	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践
		事前・事後学習	指示したテキストの該当部分を読んでおく、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする
	8	学習の主題	栄養教育に必要なカウンセリングの流れ
		授業内容	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践
		事前・事後学習	指示したテキストの該当部分を読んでおく、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする
	9	学習の主題	ライフステージと食行動の特徴（妊娠・授乳期・学童期の食行動）
		授業内容	心の状態と食行動を理解する
		事前・事後学習	指示したテキストの該当部分を読んでおく、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする
	10	学習の主題	ライフステージと食行動の特徴（青年期・成人・壮年期の食行動）
		授業内容	この時期の体の変化、生活スタイルの特徴を捉え、食行動を理解し、コミュニケーションの取り方を学び、実践する。
		事前・事後学習	指示したテキストの該当部分を読んでおく、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする
	11	学習の主題	ライフステージと食行動の特徴（高齢期の食行動）
		授業内容	この時期の身体の変化、生活スタイルの特徴を捉え、食行動を理解する。また高齢者とのコミュニケーションの取り方を学び実践する
		事前・事後学習	指示したテキストの該当部分を読んでおく、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする
	12	学習の主題	カウンセリングに必要な食行動理論について（その１）
		授業内容	摂食障害における食行動（高度肥満）のカウンセリングについて理解と実践をする
		事前・事後学習	指示したテキストの該当部分を読んでおく、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする
	13	学習の主題	カウンセリングに必要な食行動理論について（その２）
		授業内容	摂食障害における食行動（神経性食欲不振症・神経性過食症）のカウンセリングについて理解と実践をする
		事前・事後学習	指示したテキストの該当部分を読んでおく、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする
	14	学習の主題	集団栄養教育におけるグループアプローチ
		授業内容	グループディスカッションにおいての役割について理解と実践をする
		事前・事後学習	指示したテキストの該当部分を読んでおく、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする
	15	学習の主題	まとめ
		授業内容	これまでの授業を振り返る。
		事前・事後学習	授業全体を振り返り、まとめる。レポートの提出

授業科目	食生活論 Dietary Life			担当教員	菅原　千鶴子、山際　睦子		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・前期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	2 単位		

学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎	○		○	

授業目的	わが国の、特に子どもの食あり方や栄養の現状を踏まえ、食に関する指導の意義、関連する法令、諸制度について講義する。また、栄養教諭の職務内容、氏名、役割、専門性を知らせると共に、食文化の継承、行事食・地場産品の活用の意義について触れる。さらに学校給食の歴史と役割を論じると共に、食に関する指導の課題の分析を行い、偏食や食物アレルギーさらに肥満。糖尿病などの生活習慣病を予防する上で有効な食の指導のあり方について論じる。
到達目標	1. 児童生徒の職をめぐる現状、課題を踏まえ、指導の必要性、学校給食の意義等を学ぶ。 2. 日本の食生活の豊かさと問題性の文化史背景を学ぶ。 3. 栄養教諭としての使命、役割や職務内容を理解し、教育に関わる専門性と栄養に関する専門性を横断的に身に付け、児童、生徒への指導ができる知識と指導法を養う。
テキスト	金田雅代編者「四訂栄養教諭論」（建帛社） 文部科学省「食に関する指導の手引き　第二次改訂版」 文部科学省「小学校学習指導要領」
参考書	毎日新聞「いただきますからはじめよう〜みんなの食育講座〜」（寿郎社）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	目標の到達状況を試験、小テスト、提出物、その他で評価する。 その他：授業時の発表、取組み姿勢。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20%	
	その他	10%	

履修上の留意事項	食生活をとおして地域、社会への理解を深めて欲しい。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （菅原）	学習の主題	社会の変化と児童・生徒の食の問題
		授業内容	朝食抜き、孤食、偏食など
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った情報収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	2 （菅原）	学習の主題	食の問題（その 2）
		授業内容	改善・解決のための学校・自治体取り組みの例など
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った情報収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	3 （菅原）	学習の主題	食事の役割と形。
		授業内容	人間の共同作業と食事。家族的共食、外食、社会的共食。集団給食。
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った情報収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	4 （菅原）	学習の主題	食文化とは
		授業内容	食習慣の形成、食事とマナー。農耕、宗教、祝日と食事。
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った情報収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	5 （菅原）	学習の主題	食材の多様化、調理保存の発達。
		授業内容	日本の食文化の特徴とは
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った情報収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	6 (菅原)	学習の主題	食の産業の発達
		授業内容	食の安全
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った情報収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	7 (菅原)	学習の主題	「食と健康」の課題の高まり
		授業内容	世界の食糧生産・人口と日本・アジアの食糧需給の動向
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った情報収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	8 (菅原)	学習の主題	中間まとめ
		授業内容	「私」の中の食文化ー発表と討論
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った情報収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	9 (山際)	学習の主題	学校給食の歴史と課題①
		授業内容	救貧事業からすべての児童、生徒の教育の一環へ
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った情報収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	10 (山際)	学習の主題	学校給食の歴史と課題②
		授業内容	食育の課題の広がり
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った情報収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	11 (山際)	学習の主題	「栄養教諭」の制度化と現状
		授業内容	審議会答申、法令、規則など
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った情報収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	12 (山際)	学習の主題	学校給食と栄養教諭の役割
		授業内容	給食計画協力、衛生保持、食の教育の企画など
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った情報収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	13 (山際)	学習の主題	地域社会と食育①
		授業内容	郷土食・行事食の伝統。地域おこし、多文化への対応
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った情報収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	14 (山際)	学習の主題	地域社会と食育②
		授業内容	環境・資源問題と食の課題。「地産地消」の理念と食育
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った情報収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度復習のを行う
	15 (山際)	学習の主題	まとめ
		授業内容	これからの食生活と私たち：授業のまとめ発表
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った情報収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う

授業科目	食育指導論 Nutrition Education in Syokuiku			担当教員	山際　睦子、菅原　千鶴子		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・後期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	2 単位		

学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎	○			

授業目的	教科・特別活動（給食の時間や学級活動、学校行事、児童会・生徒会活動など）の他児童生徒への個別的な相談指導方法等、校内における様々な場面での食に関する指導、あるいは校外（家庭や地域など）との連携・調整の重要性と具体化について論じる。指導案の実践的な作成と発表、模擬授業などの体験を通して、食に関する指導法を獲得する。
到達目標	食に関する指導の目標及び必要性を理解し、食に関する全体計画の作成、教科等との関連、および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、あるいは、家庭、地域との連携、調整の重要性を広く横断的にとらえる力を養う。
テキスト	授業開始時に提示
参考書	「食に関する指導の手引」（文部科学省）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50%	目標の到達状況を試験、提出物、その他で評価する。 提出物：授業内容に応じたレポート等 3 回（20%） その他：プレゼンテーション　10% 授業時の取組み姿勢　20%
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20%	
	その他	30%	

履修上の留意事項	関連科目で習得した知識の統合を図り、食育指導の実践力を高めること。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （菅原）	学習の主題	学校における食に関する指導の課題と方向性
		授業内容	「食の指導に関する状況調査」、「児童生徒の食生活等実態調査」等の各資料から食の指導の課題を掘り起こす
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	2 （菅原）	学習の主題	児童、生徒の発達に応じた食に関する指導①
		授業内容	栄養教諭の問題分析・教材理解に立って教育・指導内容が児童・生徒の発達に応じて構成される。
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	3 （山際）	学習の主題	児童、生徒の発達に応じた食に関する指導②
		授業内容	幼稚園の場合、小学校（低学年、高学年）の場合、家庭に伝える場合など
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	4 （山際）	学習の主題	学習指導要領と食に関する指導の全体計画
		授業内容	学習指導要領の意義と食育のあり方を理解し、食に関する指導の全体計画の策定を行う方法を学ぶ。実際に全体計画を作成する。
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	5 （山際）	学習の主題	食に関する指導案（参考例とプレゼンテーション方法）
		授業内容	実践例を参照し、指導案の役割を学び、板書および各種の掲示方法を学ぶ。漫画・アニメ等による啓蒙や教育の例など
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	6 (山際)	学習の主題	給食の時間における指導①
		授業内容	献立の特徴、食材の産地、調理方法などの紹介の方法と事例 「給食での役割分担（もてなす気持ちを含む)」、マナーなど
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	7 (山際)	学習の主題	給食の時間における指導②
		授業内容	栄養的価値、素材の調達、調理の安全性、衛生の管理などの説明、指導
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	8 (山際)	学習の主題	中間まとめとグループ発表
		授業内容	模擬授業、相互討議
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	9 (山際)	学習の主題	家庭科、技術家庭科と理科、社会科における食に関する指導
		授業内容	家庭科、技術家庭科と理科、社会科における関連の授業と栄養教諭としての協力
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	10 (山際)	学習の主題	体育科・保健体育科と道徳、特別活動における食に関する指導
		授業内容	健康・保健・成長・体育と食の関係の指導。規律ある生活「ハレの日とケの日」「食べ残し」などの意味と指導法。学校行事等における食の指導と掲示法。
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	11 (山際)	学習の主題	中間まとめとグループ発表
		授業内容	模擬授業、相互討議
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	12 (山際)	学習の主題	生活科、総合的学習の時間における食に関する指導
		授業内容	「環境保護と農薬」「食品添加物の功罪」「食料自給率と国際関係」などの問題の教材化
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	13 (菅原)	学習の主題	個別栄養相談指導等
		授業内容	個別栄養相談指導の意義と特徴。 アレルギー等への対応、他の施設・専門家との協力。実例
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	14 (山際)	学習の主題	家庭、地域との連携、食環境のネットワーク
		授業内容	地域特性、食の国際化、「地産地消」の考え方と社会連携の態勢、指導への取り組み
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う
	15 (山際)	学習の主題	まとめグループ発表、模擬授業、相互検討
		授業内容	児童、学校、地域の特性を生かし、全体的な観点で指導案を作り、検討し合う。
		事前・事後学習	事前　授業計画に沿った収集と文献検索を行う 事後　授業後に 30 分〜1 時間程度の復習を行う

授業科目	臨床栄養学 II Clinical Nutrition II				担当教員	久保　ちづる		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2 単位		
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎		○	
授業目的	栄養・食事療法と栄養補給法について学修する。経口栄養補給法の目的、食事の形態、治療食の分類、食品選択と献立作成について学修する。保健機能食品と特別用途食品の治療への活用や薬と栄養・食事の相互作用についての知識を修得する。さらに、経腸栄養補給法、静脈栄養補給法の目的や適応疾患について理解し、経腸栄養管理、中心静脈栄養と抹消静脈栄養、輸液の種類と成分、栄養補給量の算定等を学び、在宅静脈栄養管理や栄養補給におけるリフィーディングシンドロームや感染症との関わりについても理解する。またチーム医療の種類、管理栄養士の役割（栄養評価及び栄養計画の基本）を学ぶ。							
到達目標	1. 栄養・食事療法における栄養補給法の種類について説明できる。 2. 科学的根拠に基づいた栄養食事療法の原則を説明できる。 3. 保健機能食品と特別用途食品の活用について、食事との相互作用をふまえ説明できる。 4. 薬と食事の相互作用について説明できる。 5. 経腸栄養・静脈栄養補給法について説明できる。 6. 栄養補給におけるリーフディングシンドローム、感染症などについて説明できる。 7. チーム医療における管理栄養士の役割を説明できる。							
テキスト	「visual 栄養学テキスト・臨床栄養学 II 各論」（中山書店）							
参考書	なし							

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	到達目標に関わる定期試験を実施し評価する。 目標の到達状況を提出された課題等で内容を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20%	
	その他		

履修上の留意事項	各授業の前後に 1〜2 時間の予習・復習を要する。 形態機能学、病態診療学を基盤として系統的に学修する科目である。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での症例などを講義に織り交ぜながら疾患別の栄養管理について栄養評価、栄養計画、実施、経過観察、再評価など理解しやすいように具体的に授業を進めます。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	栄養・食事療法（1）
		授業内容	栄養補給法について
		事前・事後学習	シラバス、教科書の確認をする。
	2	学習の主題	栄養・食事療法（2）
		授業内容	病院食について(一般食・特別食)
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	3	学習の主題	疾患別治療食 1
		授業内容	代謝・内分泌疾患①
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	4	学習の主題	疾患別治療食（2）
		授業内容	代謝・内分泌疾患②
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	5	学習の主題	疾患別治療食（3）
		授業内容	先天性代謝異常
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	6	学習の主題	疾患別治療食（4）
		授業内容	消化器疾患①
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	7	学習の主題	疾患別治療食（5）
		授業内容	消化器疾患②
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	8	学習の主題	疾患別治療食（6）
		授業内容	循環器疾患
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	9	学習の主題	疾患別治療食（7）
		授業内容	腎疾患①
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	10	学習の主題	疾患別治療食（8）経腸栄養補給法
		授業内容	腎疾患②
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	11	学習の主題	疾患別治療食（9）
		授業内容	褥瘡、摂食嚥下障害
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	12	学習の主題	経管・経静脈栄養補給法
		授業内容	対象傷病者、投与方法、リフィーディングシンドローム、感染症について
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	13	学習の主題	栄養剤、栄養食品
		授業内容	経口・非経口栄養法に用いられる栄養剤・栄養食品と栄養管理法（使用器材と投与ルートについて）
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	14	学習の主題	保健機能食品など
		授業内容	保健機能食品と特別用途食品の活用と疾患治療
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	15	学習の主題	チーム医療
		授業内容	チーム医療の種類と管理栄養士の役割（栄養評価、栄養計画の基本）
		事前・事後学習	授業内容の復習と課題の確認、試験準備をする。

授業科目	臨床栄養学Ⅲ Clinical Nutrition Ⅲ				担当教員	岡本　智子		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2 単位		
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎		○	
授業目的	栄養障害、肥満と代謝疾患、消化器疾患、循環器疾患、腎・尿路系疾患、神経疾患、摂食障害、呼吸器系疾患、血液系疾患、筋・骨格系疾患等について、疾患・病態別の栄養ケア・マネジメント（栄養スクリーニング・アセスメント、栄養ケア・計画立案、実施、評価、フィードバック）の方法を学修する。栄養管理計画立案に必要な情報収集と理由、さらに情報にもとづく栄養評価、栄養診断、栄養ケア計画作成とその根拠、モニタリング、評価計画の作成により患者の QOL を損なわない栄養補給や食事について理解する。また、栄養サポートチーム（ＮＳＴ）などチーム医療におけるにおける管理栄養士の活動について学修する。							
到達目標	1. 栄養障害、肥満と代謝疾患、消化器系疾患、循環器疾患、腎・尿路系疾患、神経系疾患、呼吸器系疾患、血液系疾患、筋・骨格系疾患について理解し、栄養管理の知識と技術を修得している。 2. 低栄養・摂食障害についての理解と栄養管理の知識と技術を修得している。							
テキスト	Visual　栄養学テキストシリーズ　臨床栄養学　各論　中山書店（初版第 2 刷）							
参考書								

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	目標の到達状況を試験 80%、課題レポート 20%により評価する
	レポート	20%	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	各授業の前後に１～２時間の予習・復習を要する。 形態機能学・病態診療学で学修した内容とも連動していることを理解し、予習をすること。
実務経験を活かした教育内容	修得した栄養管理の知識や技術が、実際の臨床の現場で具体的にどのように活用され、活かされているのか、その結果として栄養サポートを受けた患者の状態がどのように変化していくのか、疾患ごとに症例を踏まえ、臨床現場をイメージさせながら授業を進める

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス（授業内容　進め方、事前事後学習の仕方など）
		授業内容	疾患・病態別及び栄養サポートチーム(ＮＳＴ)での栄養管理の概念
		事前・事後学習	シラバス、教科書を確認して授業の準備をする。授業の内容をまとめ、復習、予習をする
	2	学習の主題	NST 介入における栄養管理（1）
		授業内容	NST 活動の組織と栄養管理の流れ（ 管理栄養士の役割　他職種の役割）
		事前・事後学習	配布資料を確認して授業の内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	3	学習の主題	NST 介入における栄養管理（2）
		授業内容	NST おける管理栄養士の役割と栄養管理の実際（低栄養　栄養障害・栄養評価等）
		事前・事後学習	配布資料を確認して授業の内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	4	学習の主題	疾患・病態別栄養管理（1）
		授業内容	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント　消化器疾患上部（口腔内・食道・胃・十二指腸等）
		事前・事後学習	配布資料を確認して授業の内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	5	学習の主題	疾患・病態別栄養管理（2）
		授業内容	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント　消化器疾患下部（炎症性腸疾患等、便性のコントロール(便秘・下痢等)）
		事前・事後学習	配布資料を確認して授業の内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	6	学習の主題	疾患・病態別栄養管理（3）
		授業内容	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント（肝・胆・膵疾患等）
		事前・事後学習	配布資料を確認して授業の内容を復習する。教科書を確認し予習する。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	7	学習の主題	疾患・病態別栄養管理（4）
		授業内容	肥満と代謝疾患の栄養ケア・マネジメント（肥満と肥満症）
		事前・事後学習	配布資料を確認して授業の内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	8	学習の主題	疾患・病態別栄養管理（5）
		授業内容	肥満と代謝疾患の栄養ケア・マネジメント（糖尿病）
		事前・事後学習	配布資料を確認して授業の内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	9	学習の主題	疾患・病態別栄養管理（6）
		授業内容	肥満と代謝疾患の栄養ケア・マネジメント（脂質異常症・高尿酸血症・痛風等・甲状腺機能亢進症
		事前・事後学習	配布資料を確認して授業の内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	10	学習の主題	疾患・病態別栄養管理（7）
		授業内容	循環器疾患の栄養ケア・マネジメント（高血圧・虚血性心疾患・心不全等）
		事前・事後学習	配布資料を確認して授業の内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	11	学習の主題	疾患・病態別栄養管理（8）
		授業内容	呼吸器疾患栄養のケア・マネジメント（COPD・慢性呼吸不全等）
		事前・事後学習	配布資料を確認して授業の内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	12	学習の主題	疾患・病態別栄養管理（9）
		授業内容	腎・尿路系疾患の栄養ケア・マネジメント（慢性腎臓病・慢性腎不全・糖尿病腎症等）
		事前・事後学習	配布資料を確認して授業の内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	13	学習の主題	疾患・病態別栄養管理（10）
		授業内容	摂食障害関連疾患の栄養ケア・マネジメント　（神経性やせ症、神経性過食症等）
		事前・事後学習	配布資料を確認して授業の内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	14	学習の主題	疾患・病態別栄養管理（11）
		授業内容	血液系疾患栄養のケア・マネジメント（貧血・その他の貧血等）
		事前・事後学習	配布資料を確認して授業の内容を復習する。教科書を確認し予習する。
	15	学習の主題	まとめ
		授業内容	患者の QOL と食事管理について
		事前・事後学習	これまでの内容を確認し、試験の準備をする。

授業科目	臨床栄養学実習Ⅰ Clinical Nutrition Practicum Ⅰ							担当教員	久保　ちづる
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期							選択・必修	必修
授業形態	実習							単位数	1単位
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	◎		◎		
授業目的	臨床栄養学Ⅰの基礎的な知識に基づいて、傷病者や要介護者の栄養の評価・判定方法について実習する。問診、観察、身体計測、臨床検査、栄養食事調査等による栄養アセスメントの方法を実習する。栄養アセスメントにもとづいて、栄養量の算定を行い、栄養ケア計画の目標を設定し、栄養投与量や栄養補給法などの計画を作成する。また、病院食提供についての仕組み、一般食の基準と献立作成、調理までの流れを実習する。								
到達目標	1. 栄養評価ツールを使用し栄養評価表を作成することができる。 2. 病院食の基準を理解し、一般食の献立作成と調理ができる。 3. 対象者に対応した適切な栄養評価、栄養量の設定ができ、栄養投与方法が選択できる。 4. 多職種で共有できる報告書の作成ができる（ＳＯＡＰ形式）。								
テキスト	本田佳子編「トレーニーガイド栄養食事療法の実習・栄養ケアマネジメント　第12版」（医歯薬出版）								
参考書									

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		到達目標への到達度をレポート40%、提出物40%（症例評価10%、献立作成・展開15%、発表作成物15%）、その他20%（グループ討議5%、発表5%、調理実習10%））で評価する。
	レポート	40%	
	小テスト		
	提出物	40%	
	その他	20%	

履修上の留意事項	各授業の前後に１～２時間の予習・復習を要する。 興味を持って、積極的に授業に参加すること。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での症例を織り交ぜながら、献立作成、展開、調理実習を行い治療食の味、形態、食感、彩りなどを体験し、理解を深めるように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス
		授業内容	ガイダンス．栄養アセスメント(1)栄養アセスメントの方法
		事前・事後学習	シラバス、教科書の確認をする。
	2	学習の主題	栄養アセスメント（2）
		授業内容	アセスメントキットを用いての計測、ニィハイ測定、体組成・骨密度測定
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	3	学習の主題	栄養アセスメント（2）
		授業内容	摂取栄養量の把握
		事前・事後学習	授業内容について復習する。課題をまとめ期日までに提出する。
	4	学習の主題	栄養アセスメント（3）
		授業内容	栄養評価発表
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	5	学習の主題	病院食の特徴と種類（1）
		授業内容	病院食の仕組み、一般食の基準と献立作成方法献立作成
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	6	学習の主題	病院食の特徴と種類（2）
		授業内容	献立作成
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	7	学習の主題	病院食の特徴と種類（3）
		授業内容	献立作成・調理実習準備
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	8	学習の主題	病院食の特徴と種類（4）
		授業内容	調理実習
		事前・事後学習	授業内容について復習する。課題をまとめ期日までに提出する。
	9	学習の主題	食品交換表の使い方
		授業内容	糖尿病食品交換表、腎臓病食品交換表の使い方
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	10	学習の主題	栄養評価（1）
		授業内容	栄養評価方法の実際：臨床検査値の読み方、栄養摂取量の把握
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	11	学習の主題	栄養評価（2）
		授業内容	症例に基づく栄養評価方法の実際：アセスメント、栄養診断
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	12	学習の主題	栄養ケア計画（1）
		授業内容	症例に基づく栄養計画の実際１：栄養量の設定
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	13	学習の主題	栄養ケア計画（2）
		授業内容	症例に基づく栄養計画の実際２：栄養ケア計画書の作成
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	14	学習の主題	栄養ケア計画（3）
		授業内容	症例に基づく診療記録の実際３：経過記録作成（ ＰＯＭＲ ）
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	15	学習の主題	栄養ケア計画（4）
		授業内容	症例に基づく診療記録の実際４：経過記録作成（ ＳＯＡＰ ）
		事前・事後学習	授業内容について復習する。課題をまとめ期日までに提出する。

授業科目	臨床栄養学実習 II Clinical Nutrition Practicum II			担当教員	久保　ちづる			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・後期			選択・必修	必修			
授業形態	実習			単位数	1 単位			
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎		◎	
授業目的	傷病者に対する適切な栄養学的治療手段について実習する。病院食の種類と特徴を理解し、提示された症例について、栄養ケア計画の作成に必要な情報を整理し、栄養アセスメントを行い、栄養ケア計画を作成する。基本食から特別食への献立の展開を実習し、献立を作成、調理実習を行う。試食、食事の評価を通して対象者の QOL を考慮した栄養ケア計画等について理解する。また、高齢者や障害者の食事、嚥下障害者の栄養ケア計画、栄養教育、食事介助の方法等はベッドサイドを想定して実習する。							
到達目標	1. 基本的な疾患症例を対象に栄養アセスメント、栄養ケア計画の作成ができる。 2. 病態に合わせた献立作成を展開食として作成することが出来る。 3. 対象者の QOL を考慮し、栄養ケア計画および献立の評価ができる。 4. 栄養障害をともなう症例の栄養ケア・マネジメントができる。							
テキスト	本田佳子編「トレーニーガイド栄養食事療法の実習・栄養ケアマネジメント　第 12 版」(医歯薬出版)							
参考書								

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		到達目標への到達度をレポート 40%、提出物 40%（症例評価 10%、献立作成・展開 15%、発表作成物 15%）、その他 20%（グループ討議 5%、発表 5%、調理実習 10%））で評価する。
	レポート	40%	
	小テスト		
	提出物	40%	
	その他	20%	

履修上の留意事項	各授業の前後に 1 ～ 2 時間の予習・復習を要する。 興味を持って、積極的に授業に参加してほしい。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での症例を織り交ぜながら、より難易度の高い疾患別献立作成、展開、調理実習を行い治療食の味、形態、食感、彩りなどを体験し、理解を深めるように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	病院食について（1）
		授業内容	特別食の基準と種類
		事前・事後学習	シラバス、教科書の確認をする。
	2	学習の主題	病院食について（2）
		授業内容	基本食から特別食への展開方法
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	3	学習の主題	エネルギーコントロール食（1）
		授業内容	症例の栄養ケア計画作成と献立作成
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	4	学習の主題	エネルギーコントロール食（2）
		授業内容	献立作成
		事前・事後学習	授業内容を復習し、課題に取り組む。
	5	学習の主題	エネルギーコントロール食（3）
		授業内容	栄養ケア計画と献立の評価、調理実習準備
		事前・事後学習	授業内容を確認し、課題に取り組む。
	6	学習の主題	エネルギーコントロール食（4）
		授業内容	調理実習
		事前・事後学習	授業内容を復習し、課題を期日までに提出する。
	7	学習の主題	たんぱくコントロール食（1）
		授業内容	症例の栄養ケア計画作成と献立作成
		事前・事後学習	授業内容を復習し、課題に取り組む。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	8	学習の主題	たんぱくコントロール食（2）
		授業内容	献立作成
		事前・事後学習	授業内容を復習し、課題に取り組む。
	9	学習の主題	たんぱくコントロール食（3）
		授業内容	栄養ケア計画と献立の評価、調理実習準備
		事前・事後学習	授業内容を復習し、課題に取り組む。
	10	学習の主題	脂たんぱくコントロール食（4）
		授業内容	調理実習
		事前・事後学習	授業内容を復習し、課題を期日までに提出する。
	11	学習の主題	嚥下障害（1）
		授業内容	嚥下障害の実際：食事介助等の機器、器具を使用する
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	12	学習の主題	嚥下障害（2）
		授業内容	栄養障害を有するＮＳＴ介入症例の栄養ケア計画作成と献立作成
		事前・事後学習	授業内容について復習し、疑問点をまとめる。
	13	学習の主題	嚥下障害（3）
		授業内容	献立作成、調理実習準備
		事前・事後学習	授業内容を復習し、課題に取り組む。
	14	学習の主題	嚥下障害（4）
		授業内容	調理実習
		事前・事後学習	授業内容を復習し、課題に取り組む。
	15	学習の主題	特殊食品・濃厚流動・栄養補助食品
		授業内容	使い方と効果・試飲と試食
		事前・事後学習	授業内容を復習し、課題を期日までに提出する。

授業科目	公衆栄養学 I Public Health Nutrition I				担当教員	槌本　浩司		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2 単位		
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○		◎		◎		
授業目的	公衆栄養の概念と公衆栄養活動の歴史と生態系保全、地域づくり、ヘルスプロモーション、自己管理能力、疾病予防、少子高齢化における健康増進などの活動について学修する。健康・栄養問題の現状と課題について、社会環境と健康栄養問題や健康状態、食事、食生活、食環境の変化等について理解する。また、我が国における栄養政策についての関連法規、管理栄養士制度について学修する。さらに、諸外国の健康・栄養問題の現状と課題、対策について学修する。							
到達目標	1. 公衆栄養の概念について説明できる。 2. 地域づくりのための公衆栄養活動について説明できる。 3. 国民栄養と健康の現状と課題を理解し、説明できる。 4. 健康増進計画における栄養政策について説明できる。 5. 諸外国の健康・栄養問題を理解し、説明できる。							
テキスト	1. 加島浩子、森脇弘子編「ウエルネス公衆栄養学」（医歯薬出版） 2. 他にテーマごとにプリントを配布する。							
参考書	1. 佐々木敏著「わかりやすい EBN と栄養疫学」（同文書院） 2.「国民健康・栄養の現状」（第一出版）※最新版 3. 伊藤 貞嘉、佐々木 敏 監修「日本人の食事摂取基準〈2020 年版〉」（第一出版）							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準					
	試験	60%	目標の到達状況を定期試験、小テスト、その他で評価する。 その他：授業への積極的参加、取り組み姿勢					
	レポート							
	小テスト	30%						
	提出物							
	その他	10%						
履修上の留意事項	各授業の前後に、1〜2 時間の予習・復習を要します。偶数回の授業時に小テスト（ノート等資料持ち込み可）を実施します。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、実際的なヘルスプロモーションの概念を中心に、法規、管理栄養士・栄養士制度、職業倫理、調査、健康づくり施策について理解しやすいように授業を行います。							
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容					
	1	学習の主題	公衆栄養学とは何か					
		授業内容	公衆栄養の概念と意義					
		事前・事後学習	事前学習として、教科書を読んでおくこと。健康増進法の全文を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する関係法令、通知を可能な限り読み、整理しておくこと。					
	2	学習の主題	日本人の健康・栄養課題（1）					
		授業内容	国民健康・栄養調査等国の実態把握方法					
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 また、国民健康・栄養調査に用いられる統計用語と統計手法を学んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する関係法令、統計手法を可能な限り読み、整理しておくこと。					

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	3	学習の主題	日本人の健康・栄養課題（2）
		授業内容	人口の動向・健康状態
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する統計資料を可能な限り読み、整理しておくこと。
	4	学習の主題	日本人の健康・栄養課題（3）
		授業内容	栄養素等摂取と食品摂取状況
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する資料、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。
	5	学習の主題	日本人の健康・栄養課題（4）
		授業内容	食生活・食環境の状況
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する資料、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。
	6	学習の主題	日本人の健康・栄養課題（5）
		授業内容	食料需給の状況
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する資料を可能な限り読み、整理しておくこと。
	7	学習の主題	日本の栄養政策（1）
		授業内容	公衆栄養活動の歴史
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する資料を可能な限り読み、整理しておくこと。
	8	学習の主題	日本の栄養政策（2）
		授業内容	栄養関連の主要な法律・制度
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書、健康増進法施行規則を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する関係法令、資料を可能な限り読み、整理しておくこと。
	9	学習の主題	日本の栄養政策（3）
		授業内容	健康増進計画 （健康日本 21）
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書、健康増進計画（健康日本 21）を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する関係法令、統計手法、資料を可能な限り読み、整理しておくこと。
	10	学習の主題	日本の栄養政策（4）
		授業内容	食事の指針（食事摂取基準、食事バランスガイド、食生活指針、等）
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、用語、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	11	学習の主題	日本の栄養政策（5）
		授業内容	栄養対策を担う人材（管理栄養士制度、地域資源）
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する関係法令、通知、資料を可能な限り整理しておくこと。
	12	学習の主題	自治体の栄養政策
		授業内容	都道府県、政令市等と市町村の役割
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する関係法令、資料を可能な限り読み、整理しておくこと。
	13	学習の主題	諸外国の健康・栄養課題と対策（1）
		授業内容	国際機関や先進国の課題と対策
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料を可能な限り読み、整理しておくこと。
	14	学習の主題	諸外国の健康・栄養課題と対策（2）
		授業内容	開発途上国の課題と対策
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料を可能な限り読み、整理しておくこと。
	15	学習の主題	まとめ
		授業内容	本講のまとめ、これからの公衆栄養について
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書、いままで自分で整理した記録を読んでおく こと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認すること。 また、授業で紹介する関係法令、文献、用語、EBN と栄養疫学を整理しておくこと。

授業科目	公衆栄養学 II Public Health Nutrition II			担当教員	槌本　浩司			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・後期			選択・必修	必修			
授業形態	講義			単位数	2 単位			
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		○		◎		◎
授業目的	公衆栄養学 I を基礎として、さらに公衆栄養マネジメント、公衆栄養プログラムについて学修する。栄養疫学の概要、地域栄養活動の関連と疫学調査法、データの扱い等を修得し、地域の健康・栄養施策計画立案、実践、評価、フィードバックなどについて学修し、データを解析して課題の抽出までの知識・技術を修得する。さらに、課題とその要因について、理論モデルと疫学データを用いて分析することを学修する。また、専門職として、 得られた情報に関する管理、個人情報保護、倫理的配慮を身につける。							
到達目標	1. 公衆栄養マネジメントのツールとしてプリシードプロシードモデルを用いた公衆栄養計画と評価計画の策定プロセスについて説明できる。 2. 食事調査の方法と特徴、活用について説明できる。 3. 健康と食事などの因果関係を把握する研究デザインを説明できる。 4. 実態の分析に基づいた公衆栄養プログラムを策定できる。 5. 計画の適切な評価方法を提案（ プロセス評価と結果評価 ）することができる。							
テキスト	1. 加島浩子、森脇弘子編「ウエルネス公衆栄養学」（医歯薬出版） 2. 他にテーマごとにプリントを配布する。							
参考書	1. 佐々木敏著「わかりやすい EBN と栄養疫学」（同文書院） 2.「国民健康・栄養の現状」（第一出版）※最新版 3. 伊藤 貞嘉、佐々木 敏 監修「日本人の食事摂取基準〈2020 年版〉」（第一出版）							

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	目標の到達状況を定期試験、小テスト、その他で評価する。 その他：授業への積極的参加、取り組み姿勢
	レポート		
	小テスト	30%	
	提出物		
	その他	10%	

履修上の留意事項	各授業の前後に、1〜2 時間の予習・復習を要します。偶数回の授業時に小テスト（ノート等資料持ち込み可）を実施します。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、実践で必要な栄養疫学に基づく地域診断に関することに併せ、地域の住民や集団における健康・栄養状態及び社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	公衆栄養マネジメントの概念
		授業内容	健康行動理論モデル
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料を可能な限り読み、整理しておくこと。
	2	学習の主題	公衆栄養アセスメント（1）
		授業内容	食事調査の方法
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。また、国民健康・栄養調査に用いられる統計用語と統計手法を学んでおくこと。事後は講義内容を整理し教科書や配布資料の要点を確認し整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	3	学習の主題	公衆栄養アセスメント（2）
		授業内容	栄養疫学 ①
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。また、国民健康・栄養調査に用いられる統計用語と統計手法を学んでおくこと。事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。
	4	学習の主題	公衆栄養アセスメント（3）
		授業内容	栄養疫学 ②
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。
	5	学習の主題	公衆栄養アセスメント（4）
		授業内容	栄養疫学 ③
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。
	6	学習の主題	公衆栄養アセスメント（5）
		授業内容	食事評価法（ 個人 ）
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 また、国民健康・栄養調査に用いられる統計用語と統計手法を学んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。
	7	学習の主題	公衆栄養アセスメント（6）
		授業内容	食事評価法（ 集団 ）
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 また、国民健康・栄養調査に用いられる統計用語と統計手法を学んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。
	8	学習の主題	公衆栄養計画（1）
		授業内容	国の栄養計画へのエビデンスの活用
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 また、国民健康・栄養調査に用いられる統計用語と統計手法を学んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	9	学習の主題	公衆栄養計画（2）
		授業内容	自治体の栄養計画への健診等のデータ活用
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 また、国民健康・栄養調査に用いられる統計用語と統計手法を学んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。
	10	学習の主題	公衆栄養計画（3）
		授業内容	行動科学モデルの活用
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料を可能な限り読み、整理しておくこと。
	11	学習の主題	公衆栄養計画（4）
		授業内容	食環境と食教育プログラム
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料を可能な限り読み、整理しておくこと。
	12	学習の主題	公衆栄養計画（5）
		授業内容	ソーシャルマーケティングの活用
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料を可能な限り読み、整理しておくこと。
	13	学習の主題	公衆栄養計画（6）
		授業内容	評価計画
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料を可能な限り読み、整理しておくこと。
	14	学習の主題	まとめ（1）
		授業内容	公衆栄養アセスメント及び公衆栄養計画のまとめ（1）
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書、いままで自分で整理した記録を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認すること。 また、授業で紹介する関係法令、文献、用語、EBN と栄養疫学を整理しておくこと。
	15	学習の主題	まとめ（2）
		授業内容	公衆栄養アセスメント及び公衆栄養計画のまとめ（2）
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書、いままで自分で整理した記録を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認すること。 また、授業で紹介する関係法令、文献、用語、EBN と栄養疫学を整理しておくこと。

授業科目	公衆栄養学実習Ⅰ Public Health Nutrition Practicum Ⅰ				担当教員	槌本　浩司		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	実習				単位数	1 単位		
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		◎				◎		
授業目的	公衆栄養学Ⅰ・公衆栄養学Ⅱを基礎として、地域における効果的な公衆栄養活動について実習を通して学修する。地域における健康課題を既存のデータを解析して抽出し、課題の中から優先的課題を選定し、地域の目標を設定、優先すべき取り組みについてソーシャルマーケティングの方法などを応用して、具体的かつ魅力的な事業計画の立案、評価の作成方法についても設定する。グループディスカッションを取り入れ、これらの事業計画について相互評価等を行い、実習を通して地域住民の健康課題に対応する栄養活動を実践する能力を身につける。							
到達目標	1. 健康行動理論モデルを説明できる。 2. 健康・食生活上の課題とその要因の分析について、健康行動理論を用いて説明できる。 3. 課題と要因の中から、優先すべき取り組みを選定することができる。 4. 診断や評価のための技術として、調査票の設計や集計・分析を行うことができる。 5. 調査結果に基づいて、公衆栄養教育プログラムを立案することができる。							
テキスト	1. 加島浩子、森脇弘子編「ウエルネス公衆栄養学」（医歯薬出版） 2. 他にテーマごとにプリントを配布する。							
参考書	1. 佐々木敏著「わかりやすい EBN と栄養疫学」（同文書院） 2.「国民健康・栄養の現状」（第一出版）※最新版 3. 伊藤 貞嘉、佐々木 敏 監修「日本人の食事摂取基準〈2020 年版〉」（第一出版）							

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50%	目標の到達状況を試験、小テスト、その他で評価する。 その他：実習時の積極性等 20%、報告書（成果発表を含む）20%
	レポート		
	小テスト	10%	
	提出物		
	その他	40%	

履修上の留意事項	各授業の前後に、1～2 時間の予習・復習を要します。偶数回の授業時に小テスト（ノート等資料持ち込み可）を実施します。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域住民の健康課題に対し、ヘルスプロモーションの概念に基づく公衆栄養活動の実践について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	オリエンテーション
		授業内容	栄養計画プログラムについて
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は講義内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する関係法令、通知、資料を可能な限り読み、整理しておくこと。
	2	学習の主題	公衆栄養アセスメント（1）
		授業内容	食事調査法
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は実習内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する関係法令、通知、資料を可能な限り読み、整理しておくこと。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	3	学習の主題	公衆栄養アセスメント（2）
		授業内容	食事調査解析
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読み、必要な資料を準備しておくこと。 また、国民健康・栄養調査に用いられる統計用語と統計手法を学んでおくこと。 事後は実習内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。
	4	学習の主題	公衆栄養アセスメント（3）
		授業内容	食事評価法①
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は実習内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。 また、国民健康・栄養調査に用いられる統計用語と統計手法を学んでおくこと。
	5	学習の主題	公衆栄養アセスメント（4）
		授業内容	食事評価法②
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読み、必要な資料を準備しておくこと。 事後は実習内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。
	6	学習の主題	公衆栄養アセスメント（5）
		授業内容	栄養疫学の文献について、文献検索
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読んでおくこと。 事後は実習内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。
	7	学習の主題	公衆栄養アセスメント（6）
		授業内容	栄養疫学の文献紹介・発表①
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を見て、必要な資料を準備しておくこと。 事後は実習内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料を可能な限り読み、整理しておくこと。
	8	学習の主題	公衆栄養アセスメント（7）
		授業内容	栄養疫学の文献紹介・発表②
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読み、必要な資料を準備しておくこと。 事後は実習内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料を可能な限り読み、整理しておくこと。
	9	学習の主題	公衆栄養計画案作成（1）
		授業内容	PPM を用いた自治体の健康課題と食事要因の特定
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読み、必要な資料を準備しておくこと。 事後は実習内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	10	学習の主題	公衆栄養計画案作成（2）
		授業内容	PPM を用いた食事要因に関連因子の特定
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読み、必要な資料を準備しておくこと。 事後は実習内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。
	11	学習の主題	公衆栄養計画案作成（3）
		授業内容	自治体の既存の栄養プログラムの把握と課題整理
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読み、必要な資料を準備しておくこと。 事後は実習内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。
	12	学習の主題	公衆栄養計画案作成（4）
		授業内容	自治体の栄養プログラム作成
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読み、必要な資料を準備しておくこと。 事後は実習内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。
	13	学習の主題	公衆栄養計画案作成（5）
		授業内容	自治体の栄養プログラムの評価計画作成
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読み、必要な資料を準備しておくこと。 事後は実習内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。
	14	学習の主題	栄養計画プログラム発表
		授業内容	作成した栄養計画プログラムを発表する
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書を読み、必要な資料を準備しておくこと。 事後は実習内容を整理し、教科書や配布資料の要点を確認し、整理しておくこと。 また、授業で紹介する文献、資料、統計手法、EBN と栄養疫学を可能な限り読み、整理しておくこと。
	15	学習の主題	まとめ
		授業内容	発表の事後指導とまとめ
		事前・事後学習	事前学習として、教科書、参考書、いままで整理した記録を読んでおくこと。 事後は実習内容を整理し、教科書、配布資料、実習成果物の要点を確認すること。

授業科目	総合演習Ⅰ Practical Seminar of Nutrition Ⅰ			担当教員	山部　秀子、渡辺　いつみ、久保　ちづる、槌本　浩司			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・前期			選択・必修	必修			
授業形態	演習			単位数	1 単位			
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎			○			○	○
授業目的	臨地実習の概要について学修する。各臨地実習（ 給食経営管理論実習Ⅱ・Ⅲ、臨床栄養学実習Ⅳ・Ⅴ、公衆栄養学実習Ⅱ ）の意義や目的と施設概要、実習内容について学修する。また、臨地実習に臨むにあたり、必要となる知識・技能・態度について理解する。それらの学修をふまえて、臨地実習（ 給食経営管理論実習Ⅱ ）の事前準備を行う。実習の目的に合わせ、基礎知識の整理と復習、臨地実習施設への訪問、施設指導者との打ち合わせ、実習課題の設定、実習課題に対する評価の設定などを実習に備えて進める。臨地実習終了後は臨地実習の成果発表を行い、実習で修得した知識や技術を共有し、定着させる。							
到達目標	1. 各臨地実習の意義・目的・実習施設の特徴を説明できる。 2. 各臨地実習における自主課題の設定とその理由を説明できる。 3. 社会人として施設（ 学校・介護施設・福祉施設・病院・保健所・保健センター等 ）において入所者・地域住民・関係者に対応できる態度を身につけている。 4. 実習内容の報告、研究活動の報告を成果として発表、説明できる。							
テキスト	臨地実習について資料配布(実習要項など)、課題設定に関する資料、実習ノート。							
参考書								

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標達成状況を下記の点から評価し 60 点以上を合格とする ①提出物 20 点：[実習の目的、課題の提出） ②その他 80 点：配分は下記の通り 実習施設指導者の評価 30 点 実習ノートの内容が的確に記載されている 30 点 実習報告等による実習目標、課題の達成度について（発表含む）20 点
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20%	
	その他	80%	

履修上の留意事項	臨地実習は学生として学ぶとともに、社会人としての責任ある態度が求められる。事前学習において積極的に学び十分に準備を整えること。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨地実習(給食経営管理論、臨床栄養、公衆栄養)について具体的な説明、準備などの指導をおこない、臨地実習へ安心して臨めるよう授業をおこなう。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（山部）（渡辺）	学習の主題	オリエンテーション
		授業内容	臨地実習について 臨地実習の概要
		事前・事後学習	臨地実習要項を読んでおくこと、事後は臨地実習の目的等についてまとめること。
	2（久保）	学習の主題	臨床栄養学臨地実習
		授業内容	臨床栄養学実習Ⅳ、臨床栄養学実習Ⅴについて
		事前・事後学習	臨地実習要項を読み、疑問点等を明確にしておく、事後は目的や内容をまとめる。
	3（槌本）	学習の主題	公衆栄養学臨地実習
		授業内容	公衆栄養学実習Ⅱについて
		事前・事後学習	臨地実習要項を読み、疑問点等を明確にしておく、事後は目的や内容をまとめる。
	4（山部）（渡辺）	学習の主題	給食経営管理論臨地実習
		授業内容	給食経営管理論実習Ⅱ、給食経営管理論実習Ⅲについて
		事前・事後学習	臨地実習要項を読み、疑問点等を明確にしておく、事後は目的や内容をまとめる。
	5（山部）（渡辺）	学習の主題	臨地実習における実習課題の意義と目的
		授業内容	自主課題の設定と取り組みについて
		事前・事後学習	臨地実習要項を読み自己の実習課題を明らかにしておく、事後は課題を精査する。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	6 (山部) (渡辺)	学習の主題	給食経営管理論実習Ⅱ　臨地実習の事前準備・施設訪問
		授業内容	施設訪問と挨拶、実習・課題等についての打ち合わせについて
		事前・事後学習	実習の目的、課題等をまとめて授業に臨む、事後は実習の具体的準備に取りかかる。
	7 (山部) (渡辺)	学習の主題	給食経営管理論実習Ⅱ　臨地実習の事前準備・施設訪問
		授業内容	施設指導者との連絡、相談、報告（ 課題・準備するものなど ）
		事前・事後学習	事前に施設訪問への準備をする、事後は面接等の内容を整理し教員へ報告をする。
	8 (山部) (渡辺)	学習の主題	実習課題について（1）
		授業内容	自主課題決定、課題評価項目設定①
		事前・事後学習	課題決定・整理・計画等の準備、決定後の内容精査等を行う。
	9 (山部) (渡辺)	学習の主題	実習課題について（2）
		授業内容	自主課題決定、課題評価項目設定②
		事前・事後学習	課題決定・整理・計画等の準備、決定後の内容精査等を行う。
	10 (山部) (渡辺)	学習の主題	実習課題について（3）
		授業内容	自主課題決定、課題評価項目設定について施設指導者との打ち合わせ
		事前・事後学習	施設指導者との面談の準備・資料作成、面談後は内容の精査。
	11 (山部) (渡辺)	学習の主題	実習課題について（4）
		授業内容	最終確認（基礎知識の確認・実習準備・必要な物等）
		事前・事後学習	臨地実習要項を読み準備の確認をする、事後はすべての準備を最終確認する。
	12 (山部) (渡辺)	学習の主題	成果発表準備（1）
		授業内容	成果報告会準備（ 資料整理等 ）
		事前・事後学習	成果発表のための実習ノート整理、成果発表内容を整理する。
	13 (山部) (渡辺)	学習の主題	成果発表準備（2）
		授業内容	発表スライド作成
		事前・事後学習	スライド作成に向け実習ノート整理、スライドの精査をする。
	14 (山部) (渡辺)	学習の主題	成果発表
		授業内容	成果報告会
		事前・事後学習	事前にスライドを読み込む、事後は評価を整理する。
	15 (山部) (渡辺)	学習の主題	臨地実習総合評価
		授業内容	臨地実習における課題・評価について
		事前・事後学習	各自の実習ノート整理、総合評価結果を整理する。

授業科目	英語文献講読演習 Readings in English Nutritional Articles			担当教員	松川　典子、荒川　義人、津久井　隆行			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・後期			選択・必修	選択			
授業形態	演習			単位数	1 単位			
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		◎		○				
授業目的	基本的な栄養学・食品学の英単語を理解する。また英語論文などの文献検索方法を習得し、最新の栄養科学論文に触れることで将来、管理栄養士として必要な英語力を身につける。							
到達目標	1. 基本的な栄養学の単語を理解する。 2. 基本的な食品学の単語を理解する。 3. 英語論文などの文献検索ができる。 4. 栄養学関連の科学論文を読み要約できる。							
テキスト	教員の配布資料							
参考書	清水雅子「はじめての栄養単語」（講談社サイエンティフィック） 阿部祚子／正木美知子「英語で読む 21 世紀の健康」（講談社）							

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況をレポート、その他で評価する。 その他：授業時の発表、取組み姿勢
	レポート	70%	
	小テスト		
	提出物		
	その他	30%	

履修上の留意事項	1．授業前に配布資料の該当ページに目を通し予習する。 2．授業後には配布資料の配布資料の該当ページに目を通し復習する。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（松川）	学習の主題	オリエンテーションと英語文献検索方法
		授業内容	英語文献検索方法について理解する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習すること。
	2（松川）	学習の主題	基本的な栄養学英語（1）
		授業内容	基本的な栄養学英単語について解説する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習すること。
	3（松川）	学習の主題	基本的な栄養学英語（2）
		授業内容	基本的な栄養学英単語について解説する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習すること。
	4（松川）	学習の主題	食品機能学関連の科学論文の要約（1）
		授業内容	自分で検索した食品機能学論文を要約し発表する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習すること。
	5（松川）	学習の主題	食品機能学関連の科学論文の要約（2）
		授業内容	自分で検索した食品機能学論文を要約し発表する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習すること。
	6（津久井）	学習の主題	食品科学論文の要約（1）
		授業内容	食品科学論文を要約し発表する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習すること。
	7（津久井）	学習の主題	食品科学論文の要約（2）
		授業内容	食品科学論文を要約し発表する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習すること。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	8 (津久井)	学習の主題	食品科学論文の要約（3）
		授業内容	食品科学論文を要約し発表する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習すること。
	9 (津久井)	学習の主題	食品科学論文の要約（4）
		授業内容	食品科学論文を要約し発表する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習すること。
	10 (津久井)	学習の主題	食品科学論文の要約（5）
		授業内容	食品科学論文を要約し発表する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習すること。
	11 (荒川)	学習の主題	栄養学関連科学論文の要約（1）
		授業内容	栄養学関連科学論文を要約し発表する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習すること。
	12 (荒川)	学習の主題	栄養学関連科学論文の要約（2）
		授業内容	栄養学関連科学論文を要約し発表する
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習すること。
	13 (荒川)	学習の主題	栄養学関連科学論文の要約（3）
		授業内容	栄養学関連科学論文を要約し発表する
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習すること。
	14 (荒川)	学習の主題	栄養学関連科学論文の要約（4）
		授業内容	栄養学関連科学論文を要約し発表する
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習すること。
	15 (荒川)	学習の主題	栄養学関連科学論文の要約（5）
		授業内容	栄養学関連科学論文を要約し発表する
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習すること。

授業科目	地域連携ケア論III Theory of Community-based Care III			担当教員	針金　佳代子、槌本　浩司、岡本　智子、小川　克子			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期			選択・必修	必修			
授業形態	講義			単位数	1単位			
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	○	○		○	◎	
授業目的	「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」では、1～4年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに係る他職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して管理栄養士の専門性や役割理解を深めることを目的とする。そのうち、3年次の本科目では、 地域連携ケア論Ⅰ・Ⅱでの内容をもとに、他職種・機関との連携・協働の必要性について学修する。　他職種・機関の機能と役割を復習し、それらが連携・協働して活動を展開する必要性と、その様なシステムを構築するまでのプロセス、そのプロセスにおける必要な要素について実際の活動例をもとに学修する。その学修を通して、保健医療チームにおける他職種の理解と共に、保健医療におけるチームアプローチの重要性を理解し、自身がめざす職業の専門性、役割について考察する。また、当事者である生活者が地域の課題解決のプロセスに参画することの必要性についても考察する。							
到達目標	・地域の課題を解決する支援について理解する。 ・保健医療福祉チームにおける多職種・機関との連携・協働について理解する。 ・住民の健康な生活を支える各種法律、制度（介護保険、健康保険制度、障害者総合支援法等）を理解する。 ・地域の健康課題を解決していくために必要なパートナーシップについて理解する。 ・地域で生活する人々が、課題解決のプロセスに主体的に参加する必要性を理解する。							
テキスト	開講時に提示する							
参考書	開講時に提示する							

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 各回、授業内容に応じた小レポートを予定している。その取り組み姿勢と、記載内容で評価する。詳細は授業の中で説明する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100%	
	その他		

履修上の留意事項	地域連携ケア論Ⅰ・Ⅱと一体の科目として学習すること。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（針金）	学習の主題	授業ガイダンス
		授業内容	ガイダンス。「地域連携ケア論Ⅱ」の振り返り。生活を支える専門職の専門性と役割とは何か
		事前・事後学習	授業前にシラバスを読んでおくこと。授業後には、配付資料を確認し、内容を復習すること。
	2（槌本）	学習の主題	多職種・機関との連携・協働
		授業内容	保健医療福祉チームにおける各保健医療専門職者、多機関の役割、連携、協働の必要性を理解する
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	3（岡本）	学習の主題	多職種・機関との連携・協働に参画している専門職者からの講話
		授業内容	多職種・機関との連携・協働の実際について
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	4（小川）	学習の主題	地域ケアを支える各民生委員・民生児童委員からの講話
		授業内容	民生委員・民生児童委員の役割と多職種・機関との連携・協働の実際について
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	5（槌本）	学習の主題	住民の健康な生活を支える各種法律、制度
		授業内容	介護保険、健康保険制度、障害者総合支援法などについて理解する
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	6（小川）	学習の主題	住民参画とパートナーシップ
		授業内容	住民が地域の課題解決のために専門職と協働し、専門職が住民とパートナーシップを築くことの重要性について
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	7（岡本）	学習の主題	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについてⅠ
		授業内容	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについて。自分自身が目指す職業の専門性について気づきの共有（その１）
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	8（針金）	学習の主題	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについてⅡ
		授業内容	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについて。自分自身が目指す職業の専門性について気づきの共有（その２）
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。

授業科目	給食経営管理論実習Ⅱ Field Practice in Nutrition and Food Service Management Ⅱ			担当教員	山部　秀子、渡辺　いつみ			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3 年次・前期			選択・必修	必修			
授業形態	実習			単位数	1 単位			
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎	◎		○	○
ねらい	給食業務を行うために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を修得するために実践の場で学修する。給食の運営に必要な給食費、献立作成、材料発注、検収、食数管理、調理作業、配膳などの基本的業務に関する実務を理解する。学校、高齢者・介護施設等において実習し、それぞれの施設の特徴にあわせた給食の運営について、管理栄養士の業務や役割を実践の場で学修する。							
実習目標	1. 給食の運営に必要な給食費、献立作成、材料発注、検収、食数管理、調理作業、配膳などの基本的業務について具体的に説明できる。 2. 施設の特徴に応じた給食の運営について具体的に説明できる。							
実習内容								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準					
	試験 レポート 小テスト 提出物 その他	100%	目標の達成状況を下記の点から評価し、60 点以上を合格とする ①提出物 20 点：(実習の目的、課題の提出) ②その他 80 点(配点は以下の通り) ・実習施設指導者の評価 30 点 ・実習ノートの内容が的確に記載されている 30 点 ・実習報告書内容(目的や課題の達成について) 評価（発表含む）20 点					
履修上の留意事項	1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の 3 つの括りで実施する。 2. 本実習は総合演習Ⅰにおいて、事前準備等を行い、成果発表をおこなう。 3. 給食経営管理論や関連科目で学修したことが基礎となるため、事前に学修すること。 4. 社会人として実践の場で責任を果たすことを自覚し、自己管理を厳しく行うこと。 5. 不明な点等については調べる(質問する等を含む)、問題点を明確にし、正しい知識を取得しておくこと。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨地実習への準備、実習内容、注意点などについて具体的に授業を行い、各自が安心して実習に取り組めるよう指導する。また実習施設においては施設職員、管理栄養士などの実務指導者から実践的な指導を受けることによって管理栄養士の業務が具体的に理解できる授業である。							
実習方法	具体的内容についてはオリエンテーションで説明する。 1. オリエンテーション 臨地実習の進め方について 2. 実習 施設（ 小学校、特別養護老人ホーム等 ）における実習（45 時間 ） 3. 実習ノート等の提出、総合演習Ⅰにおいて成果発表							
実習施設	高齢者福祉施設等の給食提供施設							